

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2005/10/10 Vol. 70 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 17 年第 3 回定例会報告 (3)

いつもお世話になっております。印西市議会第 3 回定例会(9月議会)は、10月14日(金)までの会期にて行われ、現在休会中です。今回も、9月議会での私からの一般質問、市執行部からの回答を中心にご報告していきたいと思っております。

9/12(月曜日)に、代表質問に立ちました。

以下、市当局の回答です。

2. コミュニティの自律経営について

会派「市民自治ネットワーク」では、あるべき町内会/自治会像を目指して、他市の会派と共に視察を行っている。そして、視察や研修を繰り返す中で、多くの先進市では町内会/自治会をはじめとしたコミュニティの形成については、住民が自らの地域社会の事項を自らの責任と判断で決定し、実現していく「住民自治」を到達目標としているように感じている。印西市でも「住民自治」を目標とし、市民と行政がともに考え、協働していく活力あるコミュニティを目指していくべきだと考える。

地域コミュニティの現状と課題をどのように考えているのか。

(回答/市長)

今日の社会は、少子高齢化などの社会情勢の変化に伴い、さまざまな課題が山積しております。

このような中で、これからのまちづくりは、行政主体から、市民主体・行政支援型への転換が求められ、こうした市民、団体等の主体性・自主性の尊重を基本として、行政の役割分担を明確にした上で、連携協力を図り、それぞれが知恵を出し合いながら、地域の課題解決やまちづくりの推進を図っていくことが、重要であると考えております。

また、活力あるコミュニティを形成していくためには、自助、共助、公助の観点から、取り組むべき領域を認識し合い、協働関係を構築していく必要もあります。特に、町内会・自治会は、その設立から運営まで、地域住民、自らの手で行われている自主・自立の団体で、課題対処や環境維持、交流親睦などの共同活動を通じて、地域を快適で住みやすくするための、さまざまな活動を展開している、地域コミュニティの根幹をなす団体でございます。各地域では、交通安全、防犯・防災、福祉、環境・美化などの諸課題に取り組んでいただいておりますが、これらの課題解決には、他の関係団体や周辺町内会・自治会とも連携して、情報を共有し、協力しあうことも大切であると考えます。

一方で、住民構成の多様化と価値観の多元化が進むにつれ、地域コミュニティ意識も希薄化しつつあり、町内会・自治会への加入率は、やや低下傾向にある状況です。

市としましては、町内会・自治会は、まちづくり、地域づくりの基礎的な組織でもありますので、今後も未組織地区への結成の働きかけや加入促進に努めてまいります。

いずれにいたしましても、まちづくりの原動力でもある、市民力・地域力を高めるとともに、市民と行政のパートナーシップの確立を図り、住民自治の質的發展に努めてまいりたいと考えております。

(ぐんじとしのりより市民のみなさまへ / 住民自治の実現とは何か?)

現在は、行政と地域との協働によるまちづくりの推進ができてきているのだろうか?

ここから、今回の質問は始まっています。しかし、市長の回答を聞く限りでは、「連携して、情報を共有し、協力し合うのは市民の役割である」とように聞こえますが、果たして市民の役割なのでしょうか?

市の窓口が「縦割り」であるため、コミュニティの一つの単位の中学校区の団体も「縦割り」になっているのが実情ではないのでしょうか? そのため、地域に対しても課ごとの「縦割り」の対応となって、市として統一されていないと同時に、団体相互で十分な連携・調整をなされていない校区も見受けられます。市民自らが地域の課題を認識し、その解決に向けて継続的・計画的にコミュニティを運営することは勿論大事ですが、まず、市が旗振りを行い、「コミュニティの仕組み」を変える必要があると思っております。

<目指すべきコミュニティの姿はどのようなものか?>

コミュニティでのさまざまな事柄を、校区住民の発意と責任で解決できる校区のコミュニティ組織をつくるべきではないか。

そのコミュニティ組織には、校区住民の意見を汲み取り、コミュニティで行う事業やコミュニティの独自のルールづくりを決定・実施できる権限と財源を与えるべきではないか。

コミュニティの運営が住民に公開され、透明性は当然確保されるべきです。

コミュニティの課題がコミュニティ全体に投げかけられ、全体の動きとして課題の解決が行われる仕組みを目指すべきです。また、自分たちの努力次第で、コミュニティが良くも悪くもなるという参加の実感が得られるようにする必要があります。

今、地域にはさまざまな課題があります。子育てに不安を持つ親への支援、見守りが必要な一人暮らしの高齢者の支えあい、防犯や防災など、決して人ごとではありません。

地域は、市民の皆さんが暮らす場です。住民どうしがつながり、お互いが支えあう場です。

そして、皆が魅力ある地域を作っていく場です。皆さんがそれぞれの地域で心豊かに生きていくために、地域に関心を持ち、改めて地域のことを見つめなおしてみませんか？

私たちのまちは私たちで育てなければなりません。みんなのために。何よりも、自分のために。

成田新高速鉄道の進捗状況は？

皆様から現状が伝わってこないけれど、どうなっているのか。問い合わせが何件か寄せられていますので、お伝えしたいと思います。

- 2010 年に開通が予定されている成田新高速鉄道の進捗状況につきましては、以下のとおりです。

1. 環境アセスメント

環境影響評価については、6月24日に環境影響評価準備書に対する知事意見(印旛沼周辺のトンネル化)がだされ、この意見について精査された後、8月4日に国土交通省に環境影響評価書の提出をしている。12月には環境影響評価書の公告・縦覧を予定している。

(* 環境省の意見は9月28日に報道発表資料として提示され、結果的に当初の予定通り、**印旛沼は高架橋梁で越えるようです。**) ** 参考URL <http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=6395>

2. 都市計画関係

都市計画の変更手続きについては、都市計画案の公告・縦覧が終了したところで、今後は、県都市計画審議会に付議され、1月には都市計画決定の告示がされる予定となっている。

3. 工事施工許可関係

8月16日に新線区間の工事施行許可申請及び成田空港高速鉄道線の変更許可申請を国土交通省に行っている。年内中には許可がおりる予定。

4. その他

* 新線区間において、現在、基準測量及び用地測量を実施している。また、成田市大谷津運動公園内で地質調査を実施。

* 環境アセス、都市計画の変更、工事施行許可等の手続きが終了した時点で、**起工式(18年1月予定)を行い、本格的に着手(用地買収等)する。**

(ぐんじとしのりから市民の皆様へ)

2010年の開業は用地買収次第だと個人的には考えています。一方、羽田空港の拡張は2009年です。国、千葉県、沿線自治体(成田市、印旛村)の取り組み方次第で開業時期も変わってくると思います。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

ぐんじとしのり